

Y3-34

採血時の末梢神経障害防止のために
セーフティ翼付きセットを使用して

岡山赤十字病院 医療安全推進室
光畑 裕子、辻 尚志、小西池泰三

当院では以前よりセーフティ翼付き採血セットを採用していた。しかし職員の採血時の針刺し事故が思うように減少しないため平成21年度4月より採血時には全症例においてセーフティ翼付き採血セットを使用することを安全衛生委員会で決定した。職員の針刺し事故防止が目的であったが、結果的にセーフティ翼付き採血セットを使用した平成21年度、平成22年度の外来中央採血室及び健康管理センターで行う採血時の採血針による末梢神経損傷や問題となる皮下出血等の事例報告が明らかに減少した。

野寺¹⁾によると厚生労働省の資料で平成16年度に献血のため541万件の採血が行われたが採血時に何らかの症状が出現する例は56,571件で約1%報告され、神経損傷をきたした例は229件(0.004%)、CRPS(複合性局所疼痛症候群)9件(0.0002%)であると述べている。当院の外来中央採血室と健康管理センターで行われる年間の採血件数は68,000件で、採血により何らかの訴えが報告されたものは平成18年度3件、平成19年度6件、平成20年度3件であった。セーフティ翼付き採血セット全例使用開始の平成21年度、平成22年度採血時の末梢神経損傷や問題となる皮下出血等の事例報告は全くなかった。年間68,000件の採血では680件程度の何らかの症状の発生が予測され、神経損傷をきたす可能性は2件程度となる。しかし平成21年度、平成22年度は問題となる事例の発生がなかった。セーフティ翼付き針は通常の採血針(直針)に比べると短針のため採血時深く穿刺ができない。そのことにより末梢神経損傷や皮下出血等の症状が出にくいのではないかと考えられる。

Y3-35

流行性ウイルス疾患の抗体価検査・ワクチン接種の取り組みについて

庄原赤十字病院 感染制御室
山根 啓幸、藤原由佳里、辻 隆弘、
鎌田 耕治、中島浩一郎

【はじめに】近年、安全で質の高い医療を提供する上で、医療関連感染対策の観点から、麻疹・風疹等流行性ウイルス疾患の抗体価検査、およびワクチン接種が推奨されている。当院においても、平成18年度に全職員に対し抗体価検査を実施し、陰性者に対しては順次ワクチン接種を行ってきた。しかし、改めて現状を調査する過程で、問題点・危険性が浮き彫りになってきた。その事実を受け、今年度改めて、全職員に対し抗体価検査・ワクチン接種を実施するに至った経緯を以下に報告する。

【実践・結果】平成18年度から現在までの全職員の抗体価検査の結果、ワクチン接種状況をまとめ、陰性率・ワクチン接種率を明示した。また、様々な文献やガイドラインより、定期的な抗体価検査・ワクチン接種の必要性、当院で推奨される検査法・ワクチンプログラムを提示した。さらに費用の試算や検査課・薬剤部との連絡調整、必要資材の確保等を行った上で、ICT・衛生委員会で協議を重ね、院内感染対策委員会・院長の承認を得て、抗体価検査・ワクチン接種を実施するに至った。

【考察】発症するリスクの高い患者が集積する医療機関において、医療関連感染対策上、職員に対し抗体価検査を行い、陰性者に対しワクチン接種を行うことは非常に重要である。今回、事前に準備を進め、明確な根拠・必要性を提示した上で、当院の現状に即した形でプログラムを提示することで、スムーズに実施することができたと考える。今後はその分析・評価、プログラムの修正、ならびに医療スタッフ等への教育も含め、医療関連感染対策の更なる充実に努めていこうと考える。